



講師の川島さんは「町の外から来られた人の思い出や経験が『あすへひとこと』の今後の可能性を作っていくのでは」と話していました

あすへひとこと 編集委員会 講演会で知識を深める

9月26日、長柄公民館であすへひとこと編集委員会が「平成を顧み未来の学びを一あすへひとことを柱に一」と題し、講演会を開催しました。編集委員会では定期的に勉強会や講演会などを重ね、高齢者の伝承活動として「あすへひとこと」の発刊を行っています。

編集委員会委員長の横山喜紀さん
(水立大黒・23区)にお話を伺いました。



——講演会の目的について教えてください
今後の活動への弾みを付ける意味で、開催しました。今回の講演は、編集委員のみならず町民のかたへの参加を募り、『あすへひとこと』の活動を皆さんに知ってもらいたいという思いもありました。

——今回の講演会を終えての感想を
講演の中で、川島先生から、今後の活動に向けて「町外から町に移り住んだ人たちの思い出をつづることも良いのでは」とありました。今までは、町で暮らしてきた人の歴史をつづってきた

のですが、これからはそうではない内容を含んでもいいのではないかと考えさせられました。

それと、これまでは文章を中心につづってきましたが「写真などをそれぞれが持ち寄り、話し合いやその時代背景などを研究するの」も面白いのではないかとのお話もありました。

これは、『あすへひとこと』の活動に参加する人にとっても、一つの手段として有効なものだと感じました。写真の思い出なら、自分の体験を述べることに限らず、話し合いの中身が広がっていくので非常にいいなど感じました。

——『あすへひとこと』今後の展開について
講演会での内容が、今後の活動に非常に参考になると感じています。私の個人的な考えになりますが、より多くの町民にあすへひとことへの活動を知ってもらい、『高齢者の語り』にとらわれずに、全町民の『あすへひとこと』へという活動になっていければ非常にうれしく思います。どんな思いで将来を考え、未来の子どもたちへどんなことを伝えていけばいいのか『あすへひとこと』という活動を通して展開できればと期待しています。

——最後にひとことお願います
『あすへひとこと』の活動を継続していくために、高齢者だけでなく、全世代でこの活動を盛り上げていければありがたいと思っています。



『あすへひとこと』は昭和61年に第1集を発刊後、現在までに全11集を刊行しています



夕日とススキ (中野沼)



Photo 高根澤高明(記録ボランティア)

ひとりごと From editors

▶歴史を重ね[60]を教えた町民体育祭。紙面には[60]を超える写真を掲載。[PhotoMotto]へのアクセスも忘れずに。紙面でお届けできなかった写真を厳選しました。▶ちなみにご覧になった人はいますか？町民体育祭のオープン競技[60m走]の最終レース。60回記念だからと広報おうらを担当する二人の○澤○樹が走っていたんです。ここ数年で重くなった体に、数キロの一眼レフカメラを携えて走りました。実は機動力強化を図っていたんです。皆さんに喜んでいただける写真を撮るには機動力も必要なんです。▶そして、もっともっと喜んでいただける写真を撮りたくて、カメラのレンズを買いました。まだ妻には内緒です。でも、今日こそは家に帰って話そう……。ゆうきを携えて。(本澤)

広報おうら

ORA TOWN Public Relations

平成30年11月号 No.626

毎月1日発行

編集・発行 邑楽町役場企画課

T 370-0692(社務記入不要)

F 0276-88-5511(代表)

F 0276-47-5007(企画課直通)

F 0276-89-0136

http://www.town.ora.gunma.jp
mailto:koho@swan.town.ora.gunma.jp

(FAX)0276-88-5511

(携帯電話)

